

活動名：TOMITA ファミリーカップ U-10

日 程：令和元年 7 月 27 日（土）・7 月 28 日（日）

会 場：（27 日）会津レクリエーション公園

（28 日）セツ森グラウンド

参 加：アーレ A：（27 日）E4 クラス 6 名、E3 クラス 3 名

（28 日）E4 クラス 4 名、E3 クラス 3 名

帯 同：渡邊コーチ

結 果：16 チーム中 15 位？

予選リーグ（4 位）

VS レスト B ● 0-8

VS ヴレイブ守山 ● 0-1

VS 緑ヶ丘 SSS ● 0-5

4 位リーグ

VS 岩 根 SSS ○ 1-0

VS 行 健 SSS ● 0-2

VS 横浜 FC ● 0-3

報 告： 渡邊

ご父兄の皆さん、猛暑の中 2 日間に渡る声援ありがとうございました。思うような試合結果を出すことが出来ませんでした。ご父兄の皆さんの声援をうけ、選手たちは全員がんばってくれました。

さて、TOMITA ファミリーカップも空港公園サッカー大会同様、リフティング最高記録をもとに 2 チームに分け、私はリフティング最高記録 75 回以下の選手で構成するアーレ A を帯同し、選手たちの無限の可能性を感じた 2 日間でした。

今回、選手と約束したことは「感動するプレーをしよう」です。随分と抽象的な表現と思われるかもしれませんが、少し説明します。先週、設楽コーチと関東の強豪チームと対戦する波崎遠征に帯同させていただき、設楽コーチの選手に対する接し方を近くで見て、試合をとおしてどのように選手たちを成長させるのかを学ばせてもらいました。その遠征で、設楽コーチが選手たちに伝えたことの一つが「感動」でした。観ている人を感動させるプレーをする。設楽コーチが選手一人ひとりに「どんなプレーが感動するかな。」と問い掛け、選手たちに考えさせるやりとりを観て、私は、大切なことを忘れていたと気づかされました。実際、それ以降の試合で選手たちの戦う姿勢が変わっていきました。設楽コーチは、選手たちに簡単に答えを教えず、考えさせ発言させるといった、手間のかかる手法で選手たちの成長を促していました。設楽コーチの手法は、選手が自ら考えて行動するようになるため「責任感」をもつように

なっていました。どんなに技術があっても気持ちが入っていなければ戦えない。戦う気持ちも大切。表面だけの技術ではこの先のステージで戦えない。植物でも根がしっかりしていれば、いつまでも美しい花を咲かせることができます。この波崎遠征に帯同して、改めて設楽コーチから教えられたことでした。

前置きが長くなりました。

この大会で印象的だったことは、7人で戦った3試合です。スペースだらけのピッチでしたが、いざ試合が始まると1人すくないことを忘れさせてくれるくらいに、選手たちが縦横無尽にピッチを走り回ってくれました。初戦の岩根 SSS さんに勝利できたことで7人でも戦えると自信がつかしました。2試合目の行健 SSS さんでは、前半を0-0で終え「コーチ後半こそ得点するよ」と頼もしい発言がありました。3試合目の横浜 FC（芳賀 SSS さん？）との最終戦、2人の5年生を止めることが出来ませんでした。抜かれても必至に追いかけて、身体をぶつけに行く姿に心を揺さぶられました。そして、DFのポジションを入れ替えようとする指示を使用した瞬間でした。一人の選手が「コーチ、僕と●●くんのポジションを入れ替えてもいいですか」と聞いてきました。自らチームが勝つためにあえて5年生のマッチアップに名乗りをあげてくれました。後半は、相手チームの配慮で7人对7人での試合をさせていただき、攻める時間帯が多くなりましたが…。

滑り込んでのシュートやパスをつなぐ場面もあり、また、相手のシュートを身体で止めたり、抜かれても何度も追いかけるなど魂のサッカーをすることが出来たと思います。この大会で、心の部分は、かなり鍛えられたと思いますので、どんな相手や状況でも自分の技術を発揮できるようトレーニングしていきたいです。

最後に、大会関係者の皆様、ご招待をいただき、ありがとうございました。



コーチ：渡邊





